平成 25 年 7 月 1 日

水道記念館と生物飼育の存続を考えるネットワーク

代表 綾 史郎 様

大 阪 市 水 道 局 長

担当：総 務 課

電話：06-6616-5404

「水道記念館の飼育生物と水道記念館の今後についての質問状」について（回答）

記

平素は何かと本市水道事業の運営に御協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、平成 25 年 6 月 14 日にいただきました「水道記念館の飼育生物と水道記念館の今後についての質問状」につきまして、別紙のとおり回答いたします。

今後とも本市水道事業に御理解、御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

番号	1.
項目	<p>繁殖の機会も与えず、個体数の自然減に任せているのは「適切な飼育」といえないと 考えます。先の回答の「適切な飼育」とはどういう意味であるのかご説明ください。</p>
<p>(回答)</p> <p>水道記念館で保有する水生生物の飼育に関しては、前回（平成 25 年 5 月 23 日付）も回答 しましたように、平成 24 年 4 月からの一時休館後も、給餌作業や水槽清掃をはじめ、水温管 理、機器の整備・点検など飼育に関わる業務を職員で協力しあいながら行い、寿命による個 体数の減少はあるものの、良好な飼育環境の維持に努めています。</p> <p>水道記念館の運営の見直しに際しては、従前より、貴団体からの市会への陳情や本市への 要望に対する回答でも、重ねて表明させていただいておりますように、水生生物は種の継承 や展示が可能な飼育環境が確保された適切な専門施設に譲渡していくという本市の方針には 変わりありません。</p> <p>そうした中、飼育を続けながら、引き続き専門施設との協議に尽力してまいりますが、前 回の回答の中で申し上げましたように、速やかに譲渡に応じる意思を示していただいている 施設も複数ある状況にあり、当局としましては、できれば貴団体の御了承を得て、これらの 施設に円滑に譲渡してまいりたいと考えております。自然保護、啓発活動に造詣が深く、様々 な施設等とも日頃から連携しておられる貴団体の皆様におかれましては、少しでも早期に水 生生物の飼育、展示が再開され、広く市民の皆さま等にご覧いただくことが可能となるよう、 ぜひとも御理解、御協力を賜りますよう、重ねてお願いいたします。</p>	
担当	<p>水道局 総務部 総務課 電話：06-6616-5404</p>

番号	2.
項目	取り急ぎ、現時点における、大阪府での絶滅危惧種、準絶滅危惧種、一般種などの区分別に、それぞれの具体的な種名・種数と各個体数をお答えください。
<p>(回答)</p> <p>水道記念館で飼育している魚類の状況（平成 25 年 5 月 31 日時点）につきましては、次のとおりとなっております。</p> <p>(天然記念物) 2 種 802 個体 アユモドキ、イタセンパラ</p> <p>(特定外来生物) 2 種 4 個体 オオクチバス、ブルーギル</p> <p>(大阪府絶滅危惧種) 14 種 735 個体 アカザ、アジメドジョウ、イチモンジタナゴ、カワバタモロコ、ゴクラクハゼ、スナガニゴイ、ツチフキ、ドジョウ、ナガレホトケドジョウ、ニッポンバラタナゴ、メダカ、ヌマムツ、ムギツク、ヤリタナゴ</p> <p>(大阪府準絶滅危惧種) 3 種 15 個体 アブラボテ、イトモロコ、ギギ</p> <p>(一般種) 53 種 512 個体 アブラヒガイ、アブラハヤ、アルビノソウギョ、イワトコナマズ、ウツセミカジカ、ウナギ、ウグイ、オイカワ、オオガタスジシマドジョウ、オオキンブナ、オオシマドジョウ、オオタナゴ、カネヒラ、カマツカ、カムルチー、ガラルファ、カワアナゴ、カワムツ、カワヨシノボリ、ギンブナ、ゲンゴロウブナ、コイ、コウタイ、コウライニゴイ、コクレン、サンインコガタスジシマドジョウ、シロヒレタビラ、シマヒレヨシノボリ、スゴモロコ、スミウキゴリ、ソウギョ、タイリクバラタナゴ、タイワンドジョウ、タウナギ、タカハヤ、タモロコ、スゴモロコ、ナマズ、ナミスジシマドジョウ、ニゴイ、ニゴロブナ、ニジマス、ハス、雑種ハリヨ、ビワコオオナマズ、ビワコガタスジシマドジョウ、ビワヒガイ、ビワマス、ビワヨシノボリ、ホトケドジョウ、ホンモロコ、モツゴ、ワタカ</p> <p>計 74 種 2,068 個体</p> <p>なお、飼育しております生物には、天然記念物をはじめとする希少種が含まれておりますことから、それぞれの具体的な個体数の公表につきましては、種保護の観点からの管理上、差し控えさせていただいておりますので、御理解いただきますようお願いいたします。</p>	
担当	水道局 総務部 総務課 電話：06-6616-5404

番号	3.
項目	<p>昨年度の「一時休館」の目的は、「費用対効果の精査のため」と説明されてきました。しかし、その結果を公表しないままに水族展示廃止を決めて今に至っています。費用対効果の精査は今後の利用方法決定の基礎であり、市民や議会に対する約束です。どういう結果であったか回答し、また公表してください。</p>
<p>(回答)</p> <p>水道事業収入の根幹をなす給水収益は、平成 10 年度をピークに減少傾向を続け、10 年度決算と 23 年度決算を比べると、約 173 億円減少している状況にあります。</p> <p>23 年度の当局広報関係経費決算額は、約 2 億 3,500 万円で、このうち水道記念館の運営には水生生物の飼育を含め年間約 8,000 万円の経費を要し、広報関係経費全体の約 34%を占めています。</p> <p>水道事業を取り巻く経営環境が厳しい中、水道事業者としての施策の優先度や、他都市の水道記念館類似施設に係る広報費用の割合などを踏まえると、当館の運営をこれまでどおり維持することは困難であり、抜本的に見直す必要があると総合的な費用対効果から判断したものです。</p> <p>なお、以上の主旨は、市民の代表である市会でも表明しており、また当局のホームページ上においても公表しております。</p>	
担当	<p>水道局 総務部 総務課 電話：06-6616-5404</p>

番号	4.
項目	<p>大阪市は、今後水道記念館の展示をすべて廃止し「水道記念館」としての再開館はしないことに決定した、と考えてよろしいのですか？正否をお答えください。</p>
<p>(回答)</p> <p>平成 25 年 3 月の大阪市会交通水道委員会において、当局から水道記念館のリニューアルの考え方として「建物は市民の貴重な財産として保存して、引き続き水道事業の PR 施設として活用すること」「運営については、管理運営経費の大幅な削減を前提としつつ、施設の利活用により収益を確保するなど、給水収益に極力依存しない運営を目指すこと」及び「リニューアルにあたっては公募型プロポーザル方式を採用し、提案を受けていくこと」を表明し、リニューアル経費を含む 25 年度予算案の議決を得たところであります。</p> <p>今後ともこの方針を踏まえ、市会での御議論もいただきながら、本市における施設活用の先行事例も参考にしつつ、早期に再開館できるよう、意思決定プロセスも含めて適切に対応してまいりたいと考えております。</p>	
担当	<p>水道局 総務部 総務課 電話：06-6616-5404</p>

番号	5.
項目	あの建物を、今後どのような意思決定プロセスで、将来どう利用しようとしているのか、具体的にお答えください。
(回答)	
前項目（4番）に対する回答と同じです。	
担当	水道局 総務部 総務課 電話：06-6616-5404